

# 方向性6 「共につくる地球にも人にもやさしいまち」

## 概要

地球温暖化の影響が拡大する中、高密都市だからこそ、限られた資源を有効に活用し、環境負荷の低減やみどりを守り続ける責任があります。

多様な主体が相互に協力しながら、省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入等を促進するとともに、環境保全・環境行動に向けた啓発・教育を推進し、脱炭素社会を実現します。

また、循環型社会の構築に向けた3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進するとともに、外国人を含めた適正分別・適正排出の意識啓発を進めます。

さらに、都市のみどりを保全し育てるとともに、地域美化の推進によりクリーンで美しいまちを創出し、良好な生活環境を次世代へ引き継ぎます。

6

共につくる地球にも人にも  
やさしいまち

① 脱炭素社会の実現

② みどりのネットワークの形成

③ 省資源・循環型社会の形成

④ 良好な生活環境の保全

⑤ 人にも地球にもやさしい行動の促進

気候変動・脱炭素  
循環型社会  
生活環境



## 施策(6-①) 脱炭素社会の実現

### 目指す姿

- 区民や事業者の環境問題への意識が高く、省エネルギー設備や再生可能エネルギーの導入が進み、各主体の日常生活や事業活動において脱炭素化が進んでいる。
- 暑熱軽減や雨水対策など、気候変動により生じる影響への対策等が進んでいる。

### 現状・課題

#### 温室効果ガスの排出量削減

温室効果ガスの区内排出量は2013年度比で18.2%削減しましたが、依然として年間100万トンを超えています。  
温室効果ガスの排出量削減には、省エネルギー化によるエネルギー消費の抑制や化石燃料由来のエネルギーに代わる再生可能エネルギーへの転換を進めていく必要があります。

#### 気候変動の影響拡大

近年、気候変動により、台風やゲリラ豪雨などの被害が激甚化し、また、猛暑等、区民にもその影響は少なくありません。  
温室効果ガス削減対策により排出量が実質ゼロになるまでには相当な年数を要することが見込まれることから、現に現れている、あるいは将来的に発生が予測されている気候変動の影響への対策を進める必要があります。

### 取組方針

#### 省エネルギー化・再生可能エネルギー導入の促進

- 2050ゼロカーボンシティ実現に向け温室効果ガスの削減を率先的に行います。
- ガソリンを使う際や、火力発電などの化石燃料の燃焼によって生み出されるエネルギー消費を抑えるため、エコ住宅・エコ事業者普及促進事業などを通じて、省エネルギー効果の高い設備への転換を積極的に進めます。
- 石油や石炭などの化石燃料を使用せず、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギー導入をさらに進め、温室効果ガスを排出しない脱炭素都市づくりを進めます。
- 区の公共施設においても省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入等をより一層進めます。また、区役所の日常業務における環境配慮行動にも積極的に取り組みます。

#### 気候変動の影響への対策推進

- 区道への遮熱性舗装や学校校庭への熱交換塗料等の使用などにより、夏季における昼間の路面温度の上昇の抑制を進めます。
- 日陰による暑熱軽減となる「緑化」や透水性舗装などによる雨水対策など、都市機能の質の向上を図ります。また、高効率設備導入などにより排熱総量の削減を進めます。
- 台風やゲリラ豪雨等自然災害に備える対策としての「防災」、熱中症予防等「健康」・「福祉」など、さまざまな施策と連動して取組を進めます。
- 農作物や生態系への影響など、気候変動に関連する情報発信を強化し、地球規模となっている地球温暖化問題の啓発等を進めます。

### 【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値		目標値			
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	区内の太陽光発電設置容量【kw】	8,269 (2023年度)	22,189	24,251	26,314	28,376	30,438
成果指標	区内温室効果ガス排出量【1000t-CO2eq】	1,324 (2022年度)	1,271 (2023年度)	1,218 (2024年度)	1,165 (2025年度)	1,112 (2026年度)	1,059 (2027年度)



## 施策(6-②) みどりのネットワークの形成

### 目指す姿

○高度に都市化が進んだ中でも、民有地も含め、やすらぎや潤いあるみどりが保全・創出されている。  
○都市における自然や生態の大切さの理解が進み、自然とのふれあい・交流等が進んでいる。

### 現状・課題

#### 都市におけるみどりの重要性

地球規模での気候変動への対応が求められている中、地面の蓄熱防止、都市防災や生態系の保全の観点から、都市におけるみどりの役割が重要視されています。  
街路樹・大学・霊園などのみどりの拠点と庭先等の身近なみどりが広がり、つながることにより、暑熱対策や減災、生態系保全を進める必要があります。

#### 区民理解と意識の向上

多様な生態系により、私たちの日常生活は様々な恩恵を受けていますが、地球上に生存する生物のうち1年間に約4万種が絶滅しているといわれている一方、生態系の重要性に対する区民の理解は進んでいない状況です。  
自然の恩恵を受けているという区民意識を高めていくとともに実際に生きものやみどりなどの自然に触れる体験の機会が必要です。

### 取組方針

#### みどりの保全と創出

- 公園や公共施設、道路等、公共空間のみどりを保全・創出し、人々の五感に訴える、潤いのある景観とやすらぎある生活環境づくりを進め、みどり率の拡大を図ります。  
また、これまで進めてきた公共施設への植樹などを積極的に進めます。
- 大規模開発時や住宅建て替え時などを活用し、民有地や建物の屋上・壁面などへの緑化も進め、公園や道路等と併せた連続性ある都市緑化を進めます。
- 緑陰の形成による熱環境の改善や雨水貯留機能を高め、気候変動対策と合わせた対策を進めます。また、多様な生きものが生息できる環境づくりにつなげます。
- 個人でもベランダなどの限られたスペースで取り組める緑化対策も進め、区民一人ひとりが緑化を行うことができるような取組を積極的に進めます。

#### 自然とのふれあい・交流の拡大

- 多様な生きものの生存を可能とする、土壌やみどりの環境などを守り育て、自然と共生する区民意識の醸成を図ります。
- 区内の生物の状況を把握し、その情報を共有・活用するための区民参加型の生態調査を実施し、区内における生きもの生息への関心を高めます。また、区民が観察したデータを集約し、生態系の資料化を進め、区民向けに発信します。
- 区民による公園等のみどりの保全活動により、みどりを通じた協働・つながりの輪を広げます。
- 交流都市とのカーボンオフセット事業、区庁舎屋上の「豊島の森」を活用した講座などを実施し、身近な自然に親しめる機会を提供します。

### 【施策の効果を表す代表的な指標】

指標		現状値		目標値			
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	みどり率【%】	14.1 (2023年度)	14.2	14.2	14.2	14.2	14.3
成果指標	「多様な生きものが生息・生育できる環境づくりが進んでいる」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	12.1 (2023年度)	14.3	14.9	15.5	16.2	16.8





## 施策(6-④) 良好な生活環境の保全

### 目指す姿

○区民一人ひとりの環境美化意識が高まり、路上喫煙やポイ捨てが減少し、クリーンな地域環境が保たれ、人々が安全で快適に過ごすことができる。

### 現状・課題

#### まちの美観の維持・向上

本区は、人口密度が高く、通勤、通学、来街者が多いうえ、繁華街を抱えるという大都市の特性上、ごみ等のポイ捨てや路上喫煙者対策などの課題が生じやすく、特に、望まない受動喫煙やポイ捨てに係るご意見等が、年間300件ほど区に寄せられています。

まちの美観の維持・向上は、安全・安心なまちづくりにつながるため、ポイ捨て抑制、喫煙マナーの向上等が必要です。

#### 環境基準への対応

大気汚染状況は改善傾向にありますが、光化学オキシダント値が高く、依然として、光化学スモッグが発生しています。また、建築物の解体工事件数は増加傾向にあり、騒音振動のほか、アスベスト飛散などの環境リスクが発生しやすい状況です。

光化学オキシダントの発生を抑えるための取組や、工事現場の法令遵守・適正施工の徹底が必要です。

### 取組方針

#### 地域美化の推進

- まちの美化保全・マナーアップ啓発等の取組を進め、インバウンド観光客をはじめとする来街者や外国人に対し、多言語による対応を進めます。
- 多言語対応による巡回パトロールの実施や区たばこルール周知・啓発を進めるとともに、受動喫煙防止に効果的な喫煙場所の整備により、たばこの火による事故や歩行者・公園利用者等への受動喫煙を抑制します。
- 喫煙に係る課題に対しては、まちの美化対策と並行して、がん対策や禁煙指導、医療費削減等健康政策についても積極的に進めます。
- 地域における清掃活動やポイ捨てマナー周知活動等を「まちキレイPJ」として展開し、大学や若者との連携など、まち全体で地域美化に取り組み、気運醸成を図ります。

#### 事業者への指導や周知啓発による環境の改善

- 事業者等に対し、法令に基づいた適切な指導・助言等により、各種公害対策を推進し、区民の健康で安全な暮らしを支えます。
- 光化学オキシダント濃度上昇の要因の一つであるVOC(揮発性有機化合物)の排出を抑制するため、事業所や一般家庭への周知啓発を図るとともに、事業者等への立入指導により法令遵守の徹底を図ります。
- 解体工事における騒音振動の発生やアスベストの飛散を防止するため、改正大気汚染防止法で届出対象となった全ての解体工事現場への立入検査や建物所有者へのアスベスト分析調査助成等により、事業者の適切な工事の施工及び法令遵守の徹底を図ります。

### 【施策の効果を表す代表的な指標】

指標	現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
成果指標 「道路や公園、街角などにポイ捨てや落書きがなくきれいである」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	35.8 (2023年度)	36.0	36.1	36.2	36.3	36.4
成果指標 事業場からのVOC(揮発性有機化合物)の排出量【kg】	6,298 (2023年度)	6,212	6,169	6,126	6,084	6,042



## 施策(6-⑤) 人にも地球にもやさしい行動の促進

### 目指す姿

- 将来を担う子ども世代の環境意識が高く、区民一人ひとりが環境を自分事として考え、行動できる土壌が形成されている。
- 区民・事業者の連携・協働により環境への取組が進んでいる。

### 現状・課題

#### 未来の担い手への社会の責任

都市環境は、現在の取組が未来の私たちの日常生活に直結し、未来に生きる区民とも分かち合う貴重な財産ともいえますが、現状、環境に関する問題は多岐にわたっています。環境問題に関心を持ち、豊島区の環境への愛着を持つきっかけとなる機会を創出するとともに、未来の豊島区を支える子どもたちや若者世代と意識を共有し、環境にやさしい行動につながられる取組が必要です。

#### 行動の実践と連携協働

環境問題は、地球温暖化や自然環境・緑化の推進、ごみ・資源の適正排出、地域美化の保全、大気汚染など多種多様であり、かつ、相互に関わり合っています。区民・事業者の取組が環境にやさしいライフスタイルやワークスタイルへの転換につながるとともに、区の施策と企業・団体の取組が連携し、活動の輪を広げていくことが必要です。

### 取組方針

#### 未来の担い手への環境教育の推進

- 未来を担う子どもたちに対し、地域美化やごみなど身近な事柄から自然環境や地球温暖化など様々な環境課題に対する興味・関心を持つきっかけとなり、自然と環境にやさしい行動をとる大人となるような環境教育・啓発を行います。
- 専門家や企業、地域と連携した体験や実践を交えた環境授業を、学校の授業時間内でも積極的に展開します。
- 未就学児や高校・大学生などにも環境教育・環境学習を広げていくとともに、高校・大学と相互に連携した取組を推進します。
- 子どもたちとの意見交換等の機会を通じて環境に係る意識を共有し、未来につなげる環境施策に反映します。

#### 環境行動力の向上と連携の推進

- 区民や事業者に対して、情報提供や「デコ活(国が進める脱炭素につながる新しい国民運動)」など行動変容を後押しする各種啓発等を通じ、環境にやさしいライフスタイルやワークスタイルの実践につなげます。
- 環境関係団体等による活動を支援・PRするとともに、環境イベントでの協働など、地域全体で環境に取り組む機運を醸成するとともに、活動の輪の拡大を図ります。
- 秩父市や箕輪町などと自治体間連携を進め、森林整備等カーボンオフセットの実施や、再生可能エネルギー電力調達など、豊島区にない強みを環境政策に生かします。
- 積極的に環境活動を展開している企業等と連携・協働し、企業ノウハウや発信力を活用し、環境課題解決に生かします。

### 【施策の効果を表す代表的な指標】

指標	現状値		目標値			
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 環境教育支援プログラム実施回数(累計)【回】	43 (2023年度)	147	199	251	303	355
成果指標 「環境にやさしいライフスタイルを実施している」と回答する区民の割合【%】	83.5 (2023年度)	86.8	87.4	87.9	88.4	88.9